

図書館利用で将来が変わる!?

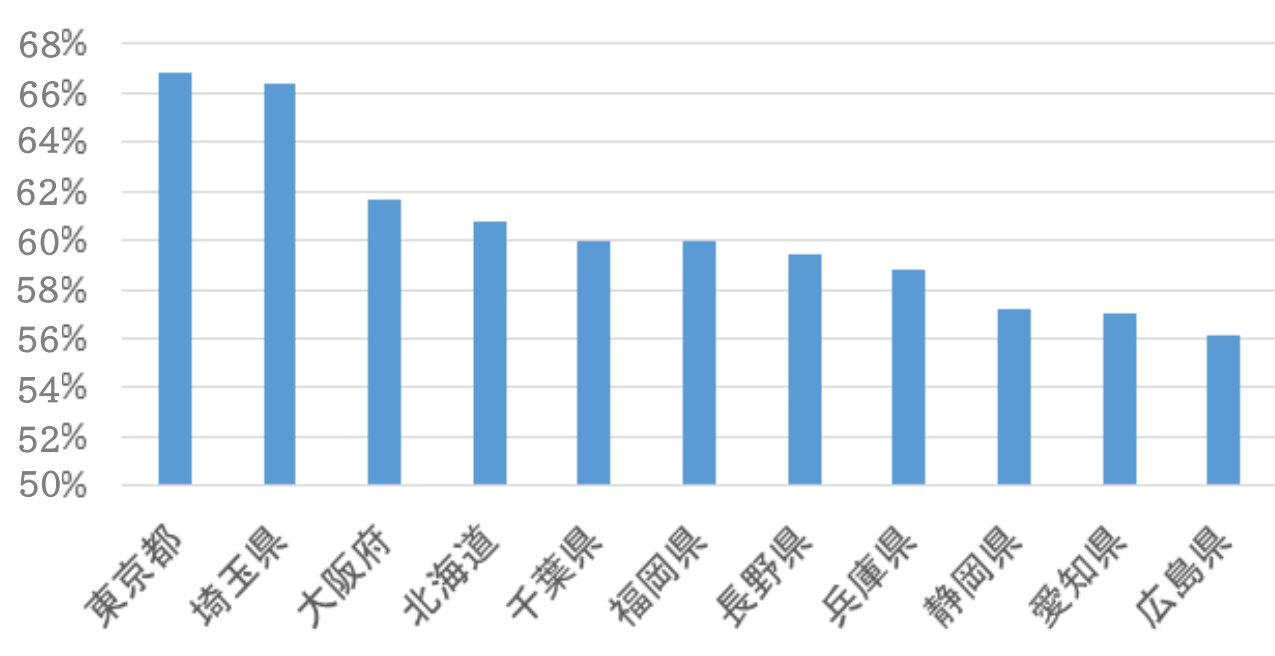
～進学率と図書館利用の関係～

仮説:「図書館の15歳未満^{※1}の利用者の貸出冊数や利用率が多い地域ほど、大学現役進学率が高いのではないか」

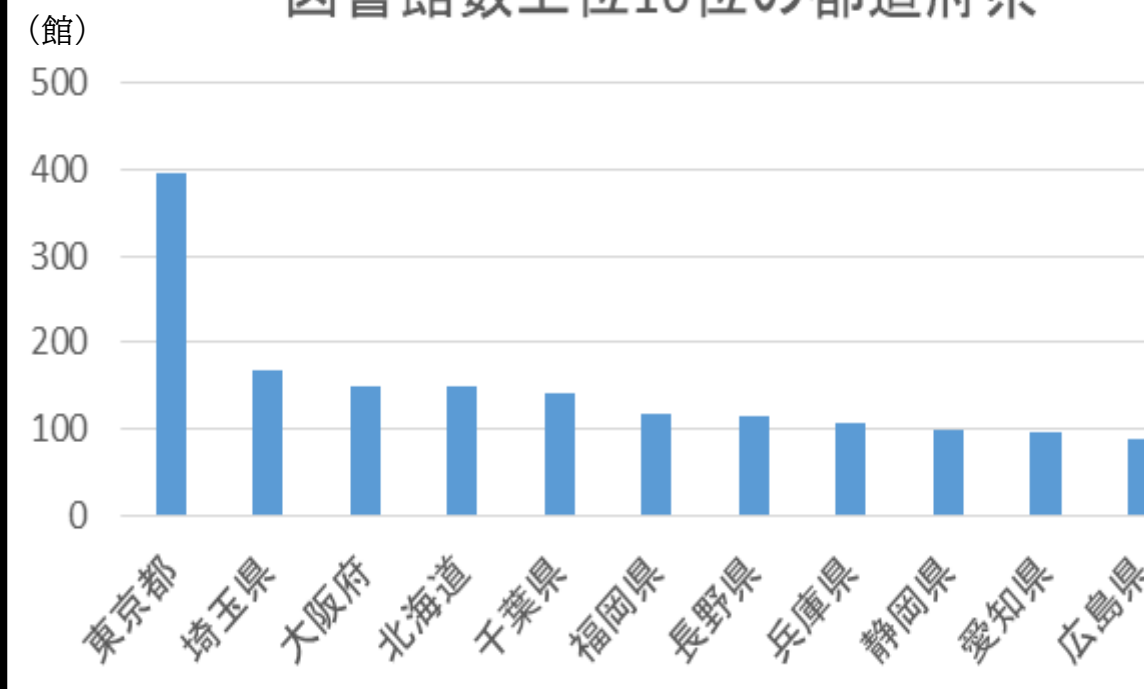
※1 読書習慣の形成期である小中学生に注目したため、15歳未満のデータを用いた。

図書館数と現役大学進学率のTOP10が完全に一致!!

大学現役進学率上位10位の都道府県



図書館数上位10位の都道府県

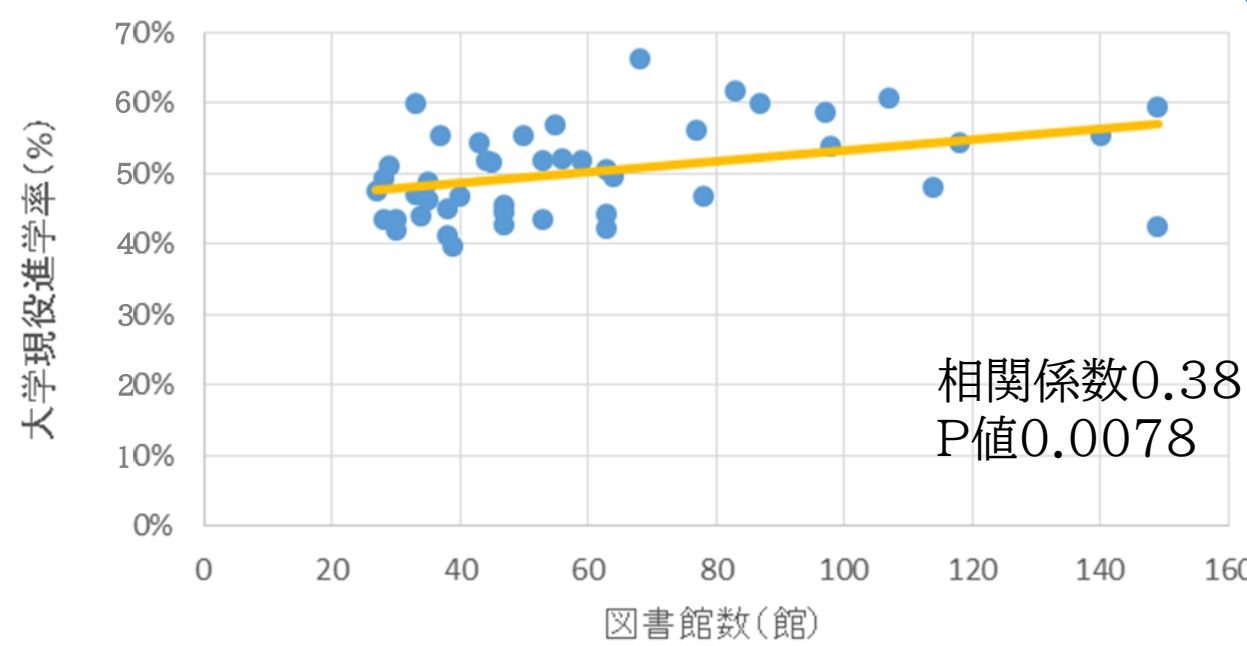


考察

現役大学進学率上位10県と、図書館の貸出冊数上位10県が完全に一致した。この一致は、図書館の活用と学力(進学)に関係がある可能性を示唆している。

図書館数と現役大学進学率に相関がある!

図書館数と現役大学進学率の関係



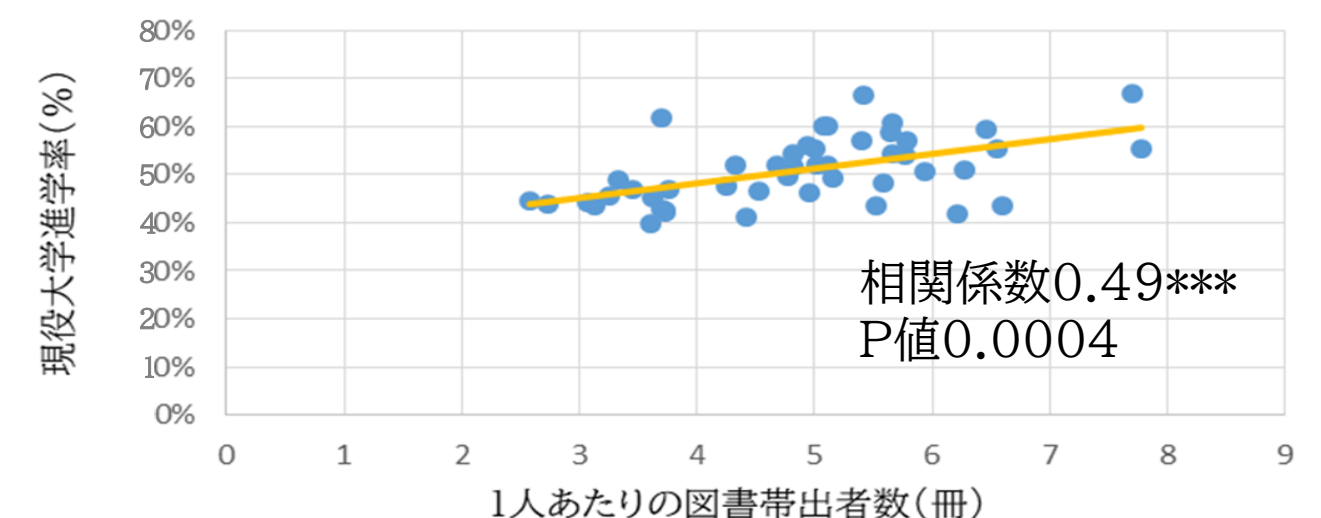
標準偏差を大きく超える外れ値であった、東京都と埼玉県を抜いたグラフ。
全国のグラフだと相関係数:0.51***
強い相関を示した

考察

東京都や埼玉県は図書館数・進学率ともに高く全体の相関の強さに影響していた。これらを除くとばらつきが増え相関は弱まったことから、特徴的なデータが相関の強さを支えていたと考えられる。

15歳未満の貸出冊数と現役大学進学率にもが相関がみられた!

都道府県別 1人あたり図書館帯出者数と現役大学進学率の関係

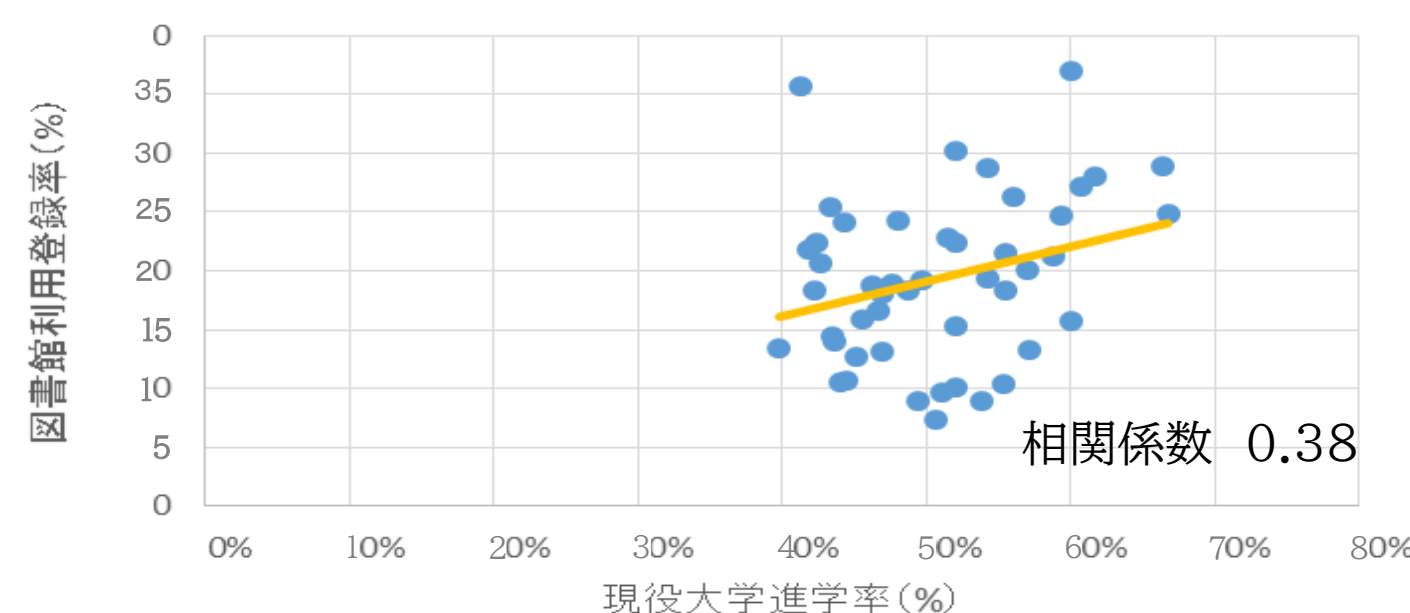


考察

「15歳未満の図書貸出冊数」と「現役大学進学率」の間に相関が見られたことから、幼少時(0歳～14歳)の読書活動が大学進学に影響を与えている可能性があると考えられる。

図書館利用登録率(児童)と進学率の相関は見られず...

図書館利用登録率(児童)と進学率の関係



考察

図書館の利用登録率と大学進学率には弱い正の相関があり、利用率が高い県ほど進学率も高い傾向がある。ただし相関は強くなく、進学率には他の要因も影響していると考えられる。例:経済状況や教育環境、家庭のサポート体制 等

まとめ

図書館数や児童向け貸出冊数と進学率に有意な正の相関が見られ、「図書館の活用が進学に関係する」という仮説は一定の裏付けが得られた。登録率との相関は弱く、進学には経済・教育環境など他の要因も影響すると考えられる。